平成１４年１０月２９日

平成１５年３月期個別中間決算の概要について

シロキ工業株式会社
（輸送用機器　東証、名証第１部上場）

平成１５年３月期個別中間決算につきまして概要をご説明させていただきます。

１、　個別決算概要について

（＊百万円未満は切り捨ててあります）

［得意先の輸出好調や拡販活動で７．４％の増収］

●当社の上半期の売上高は４２４億８百万円で、前年同期比２９億２千７百万円増の７．４％の増収となりました。また５月２８日に発表した期初予想３８４億２千１百万円に対して、３９億８千７百万円の増（１０．４％増)、８月２６日の修正発表値４１５億円に対しても９億８百万円の増となりました。

●増収の主な要因は、得意先の輸出好調に伴う生産増と得意先への拡販活動によるシート機能部品などの受注増によるものです。得意先別では、主力のトヨタ自動車（株）が４億６千４百万円増（２．８％増）と堅調に推移したほか、スズキ（株）が９億７千７百万円増（１９．３％増)、日産自動車（株）が２億７千２百万円増（２３．４％増）など好調に売上が伸び、また製品別では、シート機能部品のシートリクライナ・シートアジャスタが１８億６百万円増加（１４．３％増）と大きく伸びたほか、ウインドレギュレータも９億９千２百万円増（９．２％増）と主力製品が健闘し、これらの結果により増収となりました。

［合理化活動で２６１．２％の大幅な増益を確保］

●利益につきましては、営業利益は１６億２百万円となり、前年同期比１１億５百万円増の２２２．３％増と大きく伸ばすことができました。経常利益でも１５億２千５百万円となり、前年同期比１１億３百万円増の２６１．２％増の大幅な増益となり、また期初予想６億９千８百万円に対して８億２千６百万円の増（１１８．３％増)、修正発表値１２億円に対しても３億２千５百万円の増となりました。

●主な増益要因は、売上増加に伴う増益効果と、全社をあげた業務改革や収支改善、および生産品目を主力５製品に特化し経営資源を集中させてコスト削減に取り組んだことなどによるもので、８億２千１百万円の合理化効果をあげ

●個別中間期実績
（上段当中間期・下段前年同期）

① 売上高：
４２４億８百万円
３９４億８千１百万円
（前年同期比７．４％増）

② 営業利益：
１６億２百万円
４億９千７百万円
（前年同期比２２２．３％増）

③ 経常利益：
１５億２千５百万円
４億２千２百万円
（前年同期比２６１．２％増）

④ 特別損失
７億６千４百万円
１４億９百万円
（前年同期比４５．８％減）

⑤ 中間（当期）純利益：
５億１千８百万円
△１億６千６百万円

●設備投資
（百万円）（前年同期）
上期実績
２，１１３（１，５５８）
通期予想
３，３２６（３，７１３）

●減価償却費
（百万円）（前年同期）
上期実績
２，２７０（２，２８３）
通期予想
４、９８９（４，７９１）

ました。

［当期中間利益は５億１千８百万円］

●最終損益につきましては、固定資産除却損１億円、退職給付費用３億３千万円など特別損失７億６千４百万円（前年同期比４５．８％減）を計上しました。この結果中間利益は５億１千８百万円となりました。また期初予想１億８百万円に対して４億９百万円増（３７８．７％増）、修正発表値４億円に対しても１億１千８百万円の増となりました。

２、上期の取り組みについて：

●弊社では厳しい経営環境のなか、全社を挙げて収支改善活動と業務改革に取り組むとともに、中期経営計画（０１～０５年度）を基に構造改革を着実に進め、企業体質の強化をはかりました。上期に実施した主な取り組みは次の通りです。

１、事業のグローバル展開の推進

アジアでの生産・供給体制を強化するとともに、世界４極市場対応を加速しました。

①シロキタイランド（タイ）の事業推進

・１２月操業開始（第１ステップ）にむけ生産準備を進めました。

・９月に現地新工場建設を決定し、１２月より工事開始０４年より本格操業開始の予定です。（第２ステップ）

②「中国推進チーム」の設置

・当社ＰＪ推進部内に「中国推進チーム」を設置し、中国への進出について本格的な検討を開始しました。

・１２月に結論を出す予定です。

③ブローゼ社（ドイツ）との協業推進

２、生産品目・生産拠点の見直し

①生産品目を主力５製品に特化

・経営資源の集中化により、高品質・高機能・低コストの世界ＮＯ．1製品づくりを進め、競争力を高めるとともに、５大製品の世界４極市場への対応をはかりました。

②九州シロキ（北九州市）の操業開始

●主要得意先の売上高
（上段当中間期・下段前年同期）
（＊　）内は売上構成比率

・トヨタ系　（＊６３．６％）
２７０億９百万円
２６５億２千３百万円
（１．８％増）

・売上高上位
①トヨタ自動車　（＊４０．４％）
１７１億２千５百万円
１６６億６千万円
（２．８％増）
②スズキ　（＊１４．２％）
６０億４千万円
５０億６千３百万円
（１９．３％増）
③三菱自動車工業　（＊７．９％）
３３億３千万円
３２億９千万円
（１．２％増）

●主要製品の売上高
（＊　）内は売上構成比率

①シートリクライナ・シートアジャスタ
（＊３４．１％）
１４４億４千３百万円
１２６億３千７百万円
（１４．３％増）
②ウインドレギュレータ
（＊２７．７％）
１１７億２千９百万円
１０７億３千７百万円
（９．２％増）
③ドアサッシ　（＊１９．２％）
８１億４千９百万円
７８億６千万円
（３．７％増）

●合理化（改善）活動の成果

８億２千１百万円

費目	百万円
売上高	２００
材料費	４１４
労務費	８９
経費	２３
工場販管費	８７
本社販管費	８
合計	８２１

・７月に操業を開始し、九州地区での受注拡大に対応するとともに、国内生産拠点の最適化をはかりました。

３．通期業績予想について

［増収増益、
営業利益は５期、経常利益は４期連続の増益を予想］

●今後の見通しにつきましては、不良債権処理加速の影響や米国経済の減速、世界的な株安などが懸念され、厳しい経営環境が予想されますが、自動車の輸出は減速の懸念があるものの底堅く推移して行くものと予想されます。こうした背景を基に、当社の下期業績予想につきましては、一層の営業努力と拡販活動により売上高を前年比１１億１千１百万円増の４３５億１千２百万円を予想しています。

●従いまして、通期では売上高８５９億２千万円で前期比４．９％の増収で、期初予想８０８億３千３百万円に対しては、５０億８千７百万円増（６．３％増)、修正発表値８４０億円に対しても１９億２千万円増を予想しています。

●営業利益につきましては、一層の合理化に取り組み前期比５４．９％増の３４億４千万円で５期連続の増益を予想し、経常利益も前期比５９．１％増の３３億１千万円で４期連続の増益を予想、期初予想２３億８千７百万円に対し９億２千３百万円増（３８．６％増)、修正発表値２７億円に対しても６億１千万円増を予想しています。

●最終損益につきましては、特別損失の改善も加わり、当期純利益は前期比６６．９％増の１１億４千万円で、期初予想７億７千７百万円に対し、３億６千３百万円増の（４６．７％増)、修正発表値９億６千万円に対しても１億８千万円増を予想しています。

●個別通期予想
（上段予想、下段前期実績）

①売上高：
８５９億２千万円
８１８億８千２百万円
（前期比４．９％増）

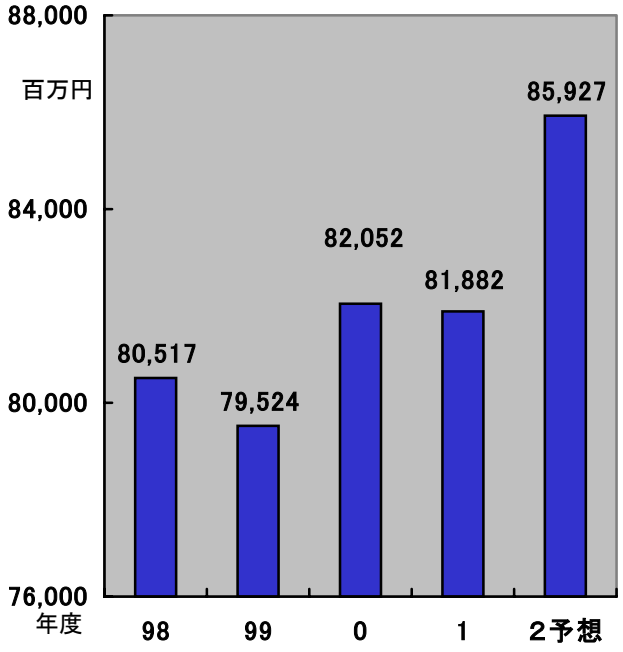
②営業利益：
３４億４千万円
２２億２千万円
（前期比５４．９％増）

③経常利益：
３３億１千万円
２０億８千万円
（前期比５９．１％増）

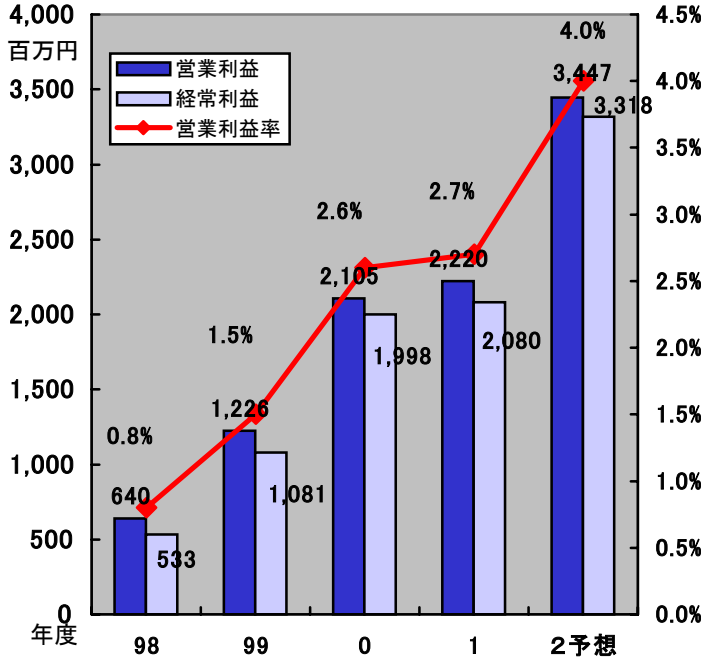
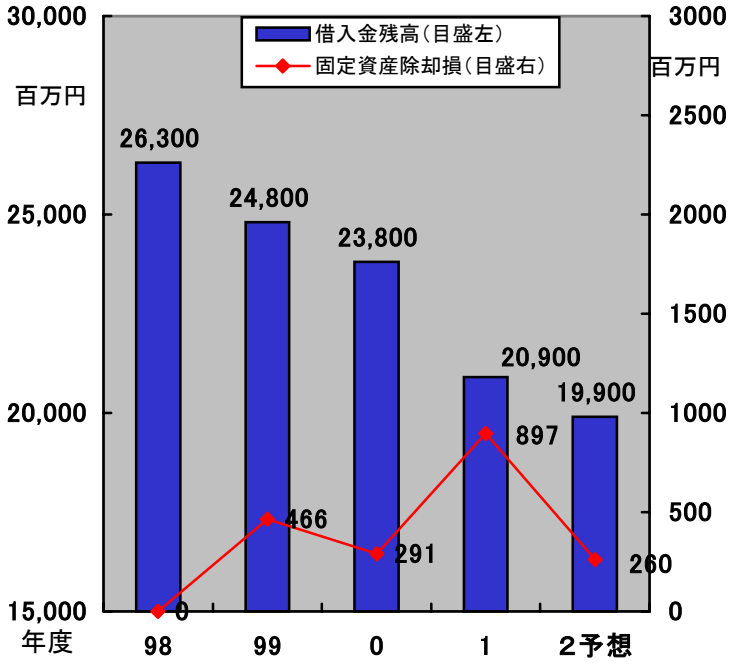
④当期純利益：
１１億４千万円
６億８千３百万円
（前期比６６．９％増）

ご　参　考

売上高推移



利益推移



財務体質の強化